

令和 8 年度 入学 試験 問題

地 理 歴 史

100 点満点

〈配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。〉

地 理 探 究 (1～14 ページ) 世界史探究 (15～32 ページ)
日 本 史 探 究 (33～47 ページ)

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 47 ページである。
3. 問題は地理探究 5 題，世界史探究 4 題，日本史探究 4 題である。
4. 試験開始後，選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には，これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部〔文系〕・文学部・教育学部〔文系〕・法学部・経済学部〔文系〕受験者は，地理探究・世界史探究・日本史探究のうちから 1 科目選択すること。
6. 解答は，すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
7. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
8. 解答冊子は，どのページも切り離してはならない。
9. 問題冊子は持ち帰ってもよいが，選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはならない。

世界史探究

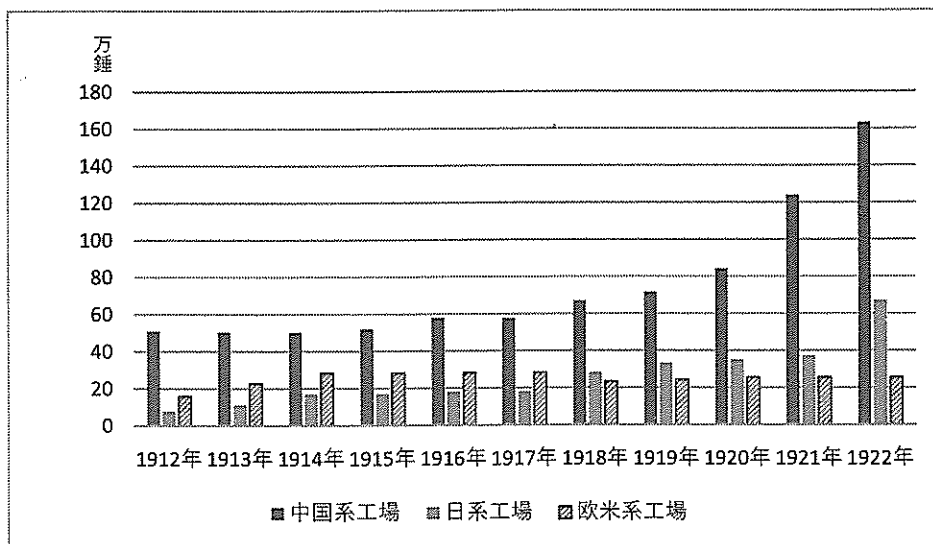
(4 問題 100 点)

I 世界史探究問題

(20 点)

次の図と表は中華民国初期における産業の発展状況に関するものである。図と表も参照しながら、この時期の中国で見られた工業の発展に関し、いかなる背景のもと、どのように工業化が進んだのか、そしてそうした工業化が、同時期やその後の中国の政治や社会にどのような変化をもたらしたのかについて、300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

図 中国における機械紡績工場の紡錘数^{ぼうすい}(1912~22 年)



(丁昶賢「中国近代機器棉紡工業設備、資本、産量、産值的統計和估量(中国近代機械綿紡績工業の設備・資本・生産量・生産額の統計と推計)」『中国近代經濟史研究資料』(6)上海社会科学院出版社, 1987年, 87~89 ページの表より作成)

表 中国における機械製綿糸の生産・輸入量(単位：1,000 t)

年	生産量	輸入量
1914	108.60	163.95
1921	259.14	76.96
1922	323.79	73.69

(久保亨編『中国経済史入門』東京大学出版会，2012年，48ページの表より一部抜粋)

II

世界史探究問題

(30点)

次の文章(A, B)を読み、下線部(1)~(29)について後の間に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 15世紀以前の西アジアでは、騎馬遊牧民の軍事力が戦場において圧倒的優位を保っていたが、この状況は16世紀を境に徐々に変化していった。

13世紀前半にモンゴルが西アジアへの進出を開始すると、この地域の情勢は激変した。モンゴル軍は1243年にアナトリア東部のキョセ=ダグで行われた戦闘で現地セルジューク朝勢力を撃破し、これを服属させた。また、1258年にはバグダードを占領し、アッバース朝最後のカリフを処刑した。モンゴル軍はさらにシリアへの進出を目指す⁽⁴⁾が、この企ては新興の 맘ルーク朝により⁽⁵⁾阻止された。一連の征服活動の結果、イラン、イラクはイル=ハン国の領土となった。以後、およそ1世紀の間、西アジア地域では、西に 맘ルーク朝、東にイル=ハン国という、いずれも遊牧民に出自をもつ騎兵を軍隊の中核に据えた国家が対峙することになった。

イル=ハン国は14世紀半ばには崩壊し、その後、イランとその周辺には様々な地方政権が成立した。つづく14世紀後半から15世紀初めにはティムールがイランのほかシリア、アナトリアにまで進出し、一時的にイランは再統一された。しかし、15世紀後半になるとイランの西部はティムール朝の支配から離脱した。

16世紀に入ると、西アジアの勢力図は再び大きく変化した。この世紀の初め、中央アジア北方の草原地帯で勢力を拡張していたトルコ系遊牧民のシャイバーニー朝が南下してティムール朝を破り、中央アジアからイラン東部へと進出した。滅亡したティムール朝の王族の一人であるバーブルは、南方に活路を見出し、のちにインドでムガル帝国を建設した。

同じく16世紀の初め、イラン西部では、神秘主義教団に起源を持つサファヴィー朝が、やはりトルコ系遊牧民の軍事力を背景に建国し、1510年にはシャイバーニー朝との戦闘に勝利してイラン東部も奪った。こうして、イラン

はサファヴィー朝のもとに再び統一された。さらにサファヴィー朝はアナトリアへの進出をねらったが、1514年にアナトリア東部のチャルディランの戦い⁽¹²⁾で火器を有効に活用したオスマン帝国軍に敗れ、その試みは頓挫した。この頃⁽¹³⁾から徐々にではあるが、西アジア地域でも火器を操る歩兵が戦場で重要な役割⁽¹⁴⁾を果たすようになり、騎兵の地位が相対的に低下してゆく。オスマン帝国は1517年にマムルーク朝を滅ぼし、シリア、エジプトも領有した。こうして、16世紀前半以降、西アジアから南アジアにかけて、オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国という3つの大国が並立することになるのである。

問

- (1) この進出は、当時中央アジア、イランを支配下に置いた国との対立を直接の原因とするものであった。この国の名を答えよ。
- (2) その2年前、モンゴル軍は東欧でドイツ・ポーランド連合軍を破っている。この戦いの名を答えよ。
- (3) この王朝の始祖は、アッバース朝カリフから「スルタン」という称号を授与された。スルタンの語義を答えよ。
- (4) 4人の正統カリフや、ウマイヤ朝およびアッバース朝の歴代のカリフはすべてイスラーム教の預言者ムハンマドと同じ部族に属していた。この部族名を答えよ。
- (5) 次の文章は、マムルーク朝後期の歴史家マクリージー(1442年没)の『諸王朝の知識の旅』に収められる、モンゴル軍とマムルーク朝軍の決戦の様相を伝える箇所の一部である。これを読んで下の問(ア)、(イ)に答えよ。

アミール*たちに命令が下った。彼らが集まると、[スルタンのムザッファル=クトゥズ**は]タタール人***と戦うべく檄^{げき}を飛ばした。(中略)それから[スルタンは]アミールのバイバルスに、一隊を率いて進軍するよう命じた。彼は進軍してタタール人の前衛を発見すると、スルタンに書状でそれを知らせ、攻めては引き返す小競り合いを続けた。そしてついに、スルタンがアイン=ジャールート****に姿を見せた。 (ア) の代官であ

るキトブガーとバイダラーは、[マムルーク朝の]軍隊が進軍してきたとの知らせが届くと、シリア地方に散らばっていたタタール人を結集し、ムスリムたちとの戦い^(イ)に向けて出発した。

(注) *軍団長の意。 **当時のマムルーク朝スルタン。

***ここでは「モンゴル人」を意味する。

****パレスチナに位置する両軍の決戦の地の名称。

(出典 歴史学研究会編『世界史史料 2』岩波書店、2009年、197ページ。
出題に際して一部改変)

- (ア) 空欄(ア)には、当時モンゴル西征軍を委ねられていたチンギス家の人物の名が入る。その人物の名を答えよ。
- (イ) 下線部(イ)について、著者マクリージーはこの箇所では、マムルーク朝軍を「ムスリムたち」と表現している。マクリージーがこのような表現を選択した理由として最も適切と考えられるものを簡潔に述べよ。
- (6) この国の宰相であったラシード＝アッディーンは、歴史書『集史』を著した。この作品が書かれた言語の名称を答えよ。
- (7) 両国はともに、軍隊を維持するため、俸給の代わりに一定の土地の徴税権を軍人に与える制度を採用していた。イスラーム史上、この制度を最初に導入したとされる国の名を答えよ。
- (8) この時ティムールと戦って敗れたオスマン帝国君主の名を答えよ。
- (9) ティムールにより首都とされ、繁栄した中央アジアの都市の名を答えよ。
- (10) この国を建設し、ティムール朝を滅ぼした集団の名称を答えよ。
- (11) この国の第3代君主はイスラーム法で非ムスリムに課されるものと規定されていた税を廃止した。この税のアラビア語の名称を答えよ。
- (12) この戦いで敗れたサファヴィー朝の君主の名を答えよ。
- (13) この戦いにおいては、鉄砲で武装したスルタン直属の歩兵常備軍が活躍した。この常備軍の名称を答えよ。
- (14) サファヴィー朝でも16世紀末に即位した君主が、銃兵隊、砲兵隊を新設している。この君主の名を答えよ。

B 黄河と長江⁽¹⁵⁾は、いずれも現在の青海省に源流を発し、大陸東方に広がる海へと注いでいる。この両大河にはさまれた地域を流れる河川を利用して運河を建設し、水路で往来しようとする試みは古く春秋・戦国時代から行われてきた。ただ、建設した運河の維持は容易でなく、⁽¹⁶⁾河底に堆積する泥土により運河が使用不能となることも珍しくなかった。

いわゆる「大運河」が完成したのは、隋の時代である。6世紀末、禪讓により北周に替り王朝を建てた楊堅は、春秋時代に開かれた運河を利用して山陽瀆⁽¹⁷⁾を建設した。次いで即位した煬帝は通済渠を開鑿⁽¹⁸⁾を、さらに高句麗出兵の準備として永済渠を建設した。しかし、⁽¹⁹⁾矢継ぎ早に行われた大運河の建設は、民衆に多大の負担をかける結果となり、各地で反乱が続発することとなった。

大運河が物資輸送の大動脈として活用されるようになるのは、8世紀以降のことである。8世紀半ば、安祿山らが起こした反乱により財政危機に瀕した唐王朝は塩の専売を実施したが、このことは、華北から江南地方へと穀物生産の重心が移動しつつあったことと相俟って、大運河の果たす役割を飛躍的に高めた。

五代から北宋時代にかけて、大運河による物資輸送(漕運)は一層盛んとなった。⁽²⁴⁾帝都を貫いて流れる大運河沿いの風景を活写したとされる絵画からも、その繁栄ぶりをうかがい知ることができる。しかしその栄華も、12世紀初めに女真の建てた金の軍隊が華北を占領したことによりあっけなく終焉を迎え、⁽²⁵⁾漕運は衰退し大運河も荒廃してしまった。

大運河が復活したのは、元が南宋を滅ぼした後のことである。元は陸路や海路を利用して世界中の富を都の大都に集めようとした。中国でも当初は海運による物資輸送を試みたが、やがて会通河を建設して漕運の復活を試みた。15世紀初め、永楽帝により会通河は改修され、大運河は江南地方と北京を結ぶ大動脈として清代まで盛んに利用されることとなった。⁽²⁹⁾

問

(15) 長江文明を代表する遺跡の一つに河姆渡遺跡がある。発掘調査の結果、そこではある作物が人工的な施設により栽培されていたことが明らかとなった。その栽培作物の名を答えよ。

- (16) 春秋・戦国時代には、新たな農具を使用することにより農業生産力が格段に向上したとされる。その農具の材質を答えよ。
- (17) 「禅譲」に対して、武力により政権を奪取することを何というか。漢字2文字で答えよ。
- (18) 587年に山陽瀆が建設された目的について、簡潔に説明せよ。
- (19) 通済渠が結んでいた二つの河川の名を答えよ。
- (20) 高句麗は7世紀半ばに唐王朝の攻撃を受けて滅亡する。その後、唐の勢力を駆逐して朝鮮半島を統一した国家の名を答えよ。
- (21) 隋末の反乱勢力の中から台頭し、唐王朝を建てた人物の名を答えよ。
- (22) 反乱の原因は、玄宗の寵妃^{ちよう}の一族に連なる人物と安祿山が朝廷で対立したことにありとされる。その寵妃の呼び名を答えよ。
- (23) 北宋から南宋時代にかけて、長江下流域が農業生産の中心となったことを端的に言い表したことばに「○○熟すれば天下足る」がある。○○に当てはまる最も適切な語句を漢字で答えよ。
- (24) 五代から北宋にかけての時代には、科学技術の面でも大きな革新が見られた。次の史料で蘇軾が言及している技術とは何か。

わたくしはかつて老先生から「自分の若いころは『史記』や『漢書』を求めでも得られず、運よく手に入ったならばみな手ずからそれを筆写し、日夜必死で暗誦^{しやう}した」とうかがったことがある。ところが近年では、商売人がさまざまな学者の書物を刊行し、一日に膨大な枚数を流布させている。

(蘇軾「李氏山房蔵書記」)

- (25) 北宋末の画家張択端によって描かれたこの絵画の題名を答えよ。
- (26) 金軍が華北に侵攻するきっかけとなったのは、北宋が国境を接していたある国家を、金と結んで挟撃しようとする作戦であった。この国家を建てた民族の名を答えよ。
- (27) 南宋時代に宋学を大成した朱熹は、儒教の經典のうち「四書」を重視したとされる。四書に含まれる書物のうち、『論語』『孟子』『大学』以外の書名を答えよ。

- (28) 元の陸上交通は駅伝制度によって支えられていた。この制度はモンゴル語で何と呼ばれていたか。カタカナで答えよ。
- (29) 清の康熙帝は、大運河を利用して六度にわたり江南地方に巡幸した。最初の巡幸は1684年に行われたが、その直前には、中国大陸南部で起こった大反乱を鎮圧している。その反乱の名称を答えよ。

Ⅲ**世界史探究問題**

(20 点)

二つの世界大戦にはさまれた時期，欧米諸国などでは，国民経済の運営や個々の国民の生活に政府・公権力が大きく介入するようになったが，その性格は国によって大きく異なった。1928 年以降のソ連，1933 年以降のアメリカおよびドイツについて，それぞれの性格を，経済運営および国民の政治的自由や人権に着目して，三者の相違が明らかになるように，300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

白 紙

IV

世界史探究問題

(30点)

次の文章(A, B)を読み, の中に最も適切な語句を入れ, 下線部(1)~(2)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 古代ギリシア・ローマの歴史叙述は, 後世に大きな影響を与え続けることになる。

ローマ共和政末期の政治家・弁論家として名高い a によって「歴史の父」と呼ばれることになるヘロドトスは, ペルシア戦争を主題とする『歴史』を執筆した。ヘロドトスにあっては, ヒストリーの語源となるヒストリエは, 自身による調査, 探究を意味しており, 『歴史』は広義の同時代史としての性格が強かった。一方でヘロドトスは, ペルシア帝国拡大の過程を記すなかで, スキタイやエジプトといった各地の諸民族の慣習や風俗を好んで描いた。「異民族びいき」の歴史家とされる所以である。ルネサンス期フランスの b はその『随想録』のなかで, 『歴史』の異民族描写を多数引用しつつ, 新大陸「発見」以降の文化的相対主義を模索している。さらにヘロドトスは, 宗教改革期の神学者にも注目された。ルター派のヒュトレウスは, 『旧約聖書』と『歴史』に連続性を認め, 天地創造から当時までの世界年代の計測を試みたのだった。

同じくギリシアの歴史家であるトゥキディデスは, ペロポネソス戦争を自身の『歴史』の主題とした。彼は, ヘロドトスと同様に同時代の歴史を対象としながらも, ヘロドトスとは異なって政治と戦争を主題とし, 演説・弁論の引用や群集心理の描写を通じて, 緊迫した支配と服従のメカニズムを活写した。現在の歴史学の水準からすると, トウキディデスの史料の利用には多くの問題があるものの, 彼の対象, 手法, 叙述は近代の歴史学にいたるまで大きな影響力を持ち続けた。

ヘレニズム期を代表する歴史家ポリビオスは, ギリシア人の立場から, 共和政ローマの帝国化のプロセスを描いた。彼は, 同時代史を扱い, 戦争・政治を主題とする点で, トウキディデスの正統なる後継者である。ポリビオスは他方で, 『政治学』を著したギリシアの哲学者 c の影響を受けつつ, ローマ

の共和政が王政，貴族政，民主政の各要素が合わさった混合政体であると主張した。この混合政体論は，啓蒙思想の時代まで影響力を持ち続けることになる。

ローマ最大の歴史家タキトゥスは，自由自治を旨とするギリシア人ポリスではなく，皇帝支配が確立したローマ帝国に生きた人物である。これにともなうて，歴史叙述の対象にも変化が生じた。『年代記』と『同時代史』のなかで，タキトゥスは皇帝による独裁政治の負の側面を辛辣に批判した。元老院議員でもあったタキトゥス⁽⁶⁾にとっては，元老院を中心とした共和主義こそが理想だったのである。またタキトゥスは，ローマ帝国にとって脅威であり続けたゲルマン人の生活と習俗を，『ゲルマニア』に描いた。この作品は，ゲルマン人がローマ軍団を壊滅させたトイトブルクの森の戦いととも⁽⁷⁾に，ロマン主義の時代以降，近代ドイツの成立期にかけて，ドイツ人の精神的支柱の一つとなっていく。さらに，ローマの将軍アグリコラの伝記である『アグリコラ』のなかで，タキトゥスはブリテン島でのローマ支配の現実に鋭く迫っている。ローマ人は破壊的な征服戦争を終えると，この辺境属州に高度な文明と快適な生活をもたらした。ブリテン島の人々のなかには，現地人の生活を破壊してそれを「平和」と名づけるローマ人の欺瞞^{ぎまん}を批判する者もいたが，現地のエリート層はその多くが，ローマ風の生活を競って採用したとされる。タキトゥスはこの状況を評して，ローマ人の「文明」はブリテン島の人々の「隸属」⁽⁸⁾を強化するものに過ぎなかったと，ローマのいわば帝国主義的な側面^{かっば}を喝破している。タキトゥスによるこのローマ帝国主義批判は，後世，ヨーロッパ人によるアメリカ大陸支配の文脈⁽⁹⁾で，再注目されることになる。

問

- (1) 「王の目」「王の耳」を巡回させて，アケメネス朝の中央集権化を図ったペルシア王の名を記せ。
- (2) この人物は聖書のドイツ語訳を出版した。この背景にある彼の宗教的な考えを簡潔に説明せよ。
- (3) 開戦当初にアテネ側を指揮し，有名な戦没者追悼演説を行ったアテネの政治家の名を記せ。
- (4) 厳密な史料批判に基づく科学的な歴史学を提唱した，19世紀ドイツの歴史家の名を記せ。

- (5) 第2次ポエニ戦争で、ローマがカルタゴのハンニバル軍を最終的に破った戦いの名を記せ。
- (6) アウグストゥスの家系出身としては最後の皇帝であり、母親殺しの廉^{かど}などでタキトゥスの猛烈な批判の対象ともなった人物の名を記せ。
- (7) この戦いの古戦場と考えられたデトモルト市郊外に、ゲルマン人側の指揮官であるヘルマン(アルミニウス)の巨像が建立され、その除幕式に、のちにドイツ皇帝となって「世界政策」を推進する人物が参加した。この皇帝の名を記せ。
- (8) 以下に引用する文章は、オクスフォード大学古代史教授のハヴァフィールドが、20世紀初頭に行った2つの講演からの抜粋である。ローマ帝国の属州支配についてのハヴァフィールドの理解にみられる、当時のイギリス人エリート層にとってのローマ帝国の意義を、タキトゥスの帝国評価と比較しつつ説明せよ。

ローマ帝政期最大の達成は、属州行政にこそあります——つまり、蛮族をはねのける前線防衛の組織化とその防衛線の内側での属州の発展です。(中略)ローマの言語と慣習が広まり、政治的権利が拡大し、都市的生活が確立され、属州の人々が秩序ある一貫した文明に同化されました。これが帝国の成し遂げたことです。(中略)こうした順応を決して強制しなかったローマの寛容さは、その文化をさらに魅力的なものにしました。

(出典 F. Haverfield, "The Romanization of Roman Britain," *Proceedings of the British Academy*, vol. 2, 1905-1906 (Offprint) より訳出)

ローマ帝国の研究は一体何の役に立つのかと、問う必要があるでしょうか。(中略)ローマ帝国のシステムは、その相違点と類似点の双方で、わたしたち自身の帝国、たとえばインドの帝国を、あらゆる側面から照らし出します。ローマがその巨大な支配地域の過半を合併し、国民性を消し去り、同化した方法、そしてヨーロッパの三分の一以上の地域とアフリカの一部にギリシア・ローマ文化を広めた——おそらく意図せざる、しかし完

全な——ローマの成功は、多くの点でわたしたちの時代と帝国に関係する
ものです。

(出典 F. Haverfield, “An Inaugural Address delivered before the
first Annual General Meeting of the Society, 11th May, 1911,” *Journal
of Roman Studies*, vol. 1, 1911 より訳出)

- (9) スペインによるアメリカ大陸支配の暴力性を批判し、『インディアスの破
壊についての簡潔な報告』を著したドミニコ会修道士の名を記せ。

B 20世紀初頭までに、アフリカ大陸の大半はヨーロッパ諸国の植民地として分割されるが、その前提を整えたのが一連のアフリカ探検である。宣教のために南アフリカに赴いたリヴィングストンはアフリカ大陸南部を精力的に踏破し、探検家としての名声を確立した。探検の途上で消息を絶った彼を1871年に救出したのがスタンリーである。レオポルド2世の支援の下で行われたスタンリーのコンゴ川流域探検は、レオポルド2世の私領であるコンゴ自由国(コンゴ独立国)の設立(1885年)につながった。コンラッドの小説『闇の奥』(1899年)に描かれたように、コンゴ自由国では先住民に対する非人道的な虐待と収奪が横行し、国際的に非難が広がった。ヨーロッパ諸国の植民地建設と不可分であった苛烈な暴力行使のもう一つの代表的な事例が、南西アフリカ植民地においてドイツが実行した大量虐殺であり、先住民の8割が殺害された。こうした残虐性を帯びた帝国主義を正当化する役割を果たした思想の一つが、社会進化論である。

先住民の側がおとなしくヨーロッパ諸国の支配を受け入れたわけではなく、時には激しい抵抗の動きを見せた。たとえば、イギリスがスーダンを制圧する過程では長期にわたる抵抗運動(マフディー運動)が展開され、「チャイニーズ・ゴードン」の異名をとったイギリスのゴードン将軍がその渦中で戦死を遂げた。また、アフリカ争奪戦を繰り広げるヨーロッパ諸国の利害もしばしば相対立した。1898年のスーダンでは、イギリスとフランスの間に軍事衝突すれすれの緊迫した場面が生まれたが、フランスが譲歩し、ドイツを警戒する両国は1904年に英仏協商を結んだ。英仏協商の締結に先立つ1902年の時点で、イギリスはクリミア戦争以降の外交の基本路線であった「光荣ある孤立」を覆し、同盟外交に転じていた。ドイツはフランスとの対立を深め、モロッコでは1905年と1911年の二度にわたって両国間に一触即発の危機が生じた。アフリカ分割の過程で生じた最大の戦争は1899~1902年の南アフリカ戦争であり、この戦争に勝利したイギリスは1910年にイギリス帝国自治領として南アフリカ連邦を設立する。

アフリカで独立を求める動きが顕在化するのは第二次世界大戦後のことである。1951年のリビアが先鞭をつけ、特に後に「アフリカの年」と呼ばれること

になる 1960 年には 17 か国が独立した。アフリカ諸国を結集して 1963 年に設立されたのがアフリカ統一機構(OAU)である。しかし、不自然な国境線、脆弱な経済、⁽²²⁾教育の遅れ等、植民地支配の負の遺産は現在でもアフリカ諸国に重くのしかかっている。

問

- (10) 20 世紀初頭の段階では植民地化を免れていたものの、1935 年にイタリアの軍事侵攻を受け、翌年には併合されるアフリカの国の名を答えよ。
- (11) 1652 年にオランダ東インド会社が設立し、1814~15 年のウィーン会議でイギリス領に移管されたアフリカ大陸最南端の植民地の名を答えよ。
- (12) リヴィングストンの出身地スコットランドで有力だった長老派教会(プレスビテリアン、カルヴァン派)の中核的な教説は何か、答えよ。
- (13) レオポルド 2 世が国王であったヨーロッパの国の名を答えよ。
- (14) 社会進化論の概要を簡潔に説明せよ。
- (15) ゴードンが鎮圧に貢献し、それにより「チャイニーズ・ゴードン」と呼ばれることとなった 1851~64 年の反乱の名を答えよ。
- (16) この出来事を何と呼ぶか、答えよ。
- (17) 「光榮ある孤立」を捨てたイギリスが 1902 年に同盟関係を結んだ相手国はどこか、答えよ。
- (18) 1912 年にモロッコはフランスの保護国とされるが、その際、領域の一部はスペインの保護下に入った。1936 年にはスペイン保護下のモロッコ(メリリャ)でスペイン人民戦線政府に対する軍の反乱が始まり、これをきっかけにスペインは内戦に突入する。ソ連が人民戦線政府側を、ドイツとイタリアが反乱軍側を支援した一方、イギリスやフランスは不干渉の姿勢を保った。これらの国はなぜ不干渉政策をとったのか、簡潔に説明せよ。
- (19) オランダ系入植者が設立し、この戦争でイギリスと対決した 2 つの国の名を答えよ。
- (20) 1931 年のウェストミンスター憲章は自治領の地位を大きく変化させた。この変化について、簡潔に説明せよ。

- ②1 イタリア領リビアの設立(1934年)に至る経緯の端緒となった1911～12年の戦争の名を答えよ。
- ②2 OAUの設立を決めた1963年のアフリカ諸国首脳会議を主導したガーナ共和国の大統領の名を答えよ。

世界史探究問題は、このページで終わりである。